

0 はじめまして よろしくお願いたします。

令和8年度 西東京市立谷戸小学校 学校経営方針

1 はじめに

教育基本法の理念の下、基礎教育を担う小学校教育の使命を自覚し、児童の健やかな成長を期し、その実現のための指導・支援に全教職員が力を尽くします。

- 1 全教職員で、子ども一人一人の「よさや可能性」を最大限に引き出します。【自立する子ども】
 - 2 全教職員で、学校が家庭・地域とつながり、持続可能な教育環境をつくります。【共生する子ども】
 - 3 全教職員で、一生涯にわたって学び受け継がれる谷戸の教育の好循環をつくります。【貢献する子ども】
- を踏まえ、「地域のキーステーション」として存在する学校になるべく、「確かな信頼」を得るよう攻めの学校経営・運営を全教職員が「オール谷戸」、「チーム谷戸」で推し進めます。

※ 伊藤 前校長先生が決裁し、教育委員会が受理した本校の「令和8年度教育課程」を踏まえ、

2 めざす子ども像

<教育目標>

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| ◎ 心豊かな子（重点目標） | 「自分も他の人も大切に」人権の根幹を体得 |
| ○ すすんで学び、行動する子（重点目標） | 子どもの意見表明機会の創出、自主性、主体性への導き |
| ○ 元気でねばり強い子 | 体育・健康教育の充実と同時に耐性も身に付ける |

本年度の重点目標に迫るキーワードを「かかわる力の育成」とします。あらゆる場面でかかわる力の育ちについて、教職員一人一人が意識して教育活動を進めます。

3 めざす学校像

(0) 今年度の教職員の組織キーワード 「すべては谷戸小の子どもたちの幸せのために」

- 挑戦（大人がまずやってみましょう）
- かかわる力（生きる力、主体的で対話的な深い学びは、「かかわる力」をもった教職員が育てる。
私たち自身が、異年齢の教職員同士で積極関わり、かかわる力を伸ばしていきましょう。
- 凡事徹底（先あいさつ、校内外整美、机上整理、服装整えなどは大人が率先垂範）
- 学年チームから「学校チーム」へ（さらなる組織力アップ）※昔でいう学級王国にならない。競い合いでもない。「一緒に歩みを進める教職員集団」でいきましょう。
- 変化に強くなる。（柔軟性とイレギュラーに強くなる）
- 発信（学校・学級・分掌日より、行事関連だよりの発信、学校ホームページのリアルタイム発信）
- 服務事故絶対なし。（「西東京あったか先生」、「使命を全うする」、「ハウレンソウ」）

(1) 全教職員で、谷戸小の子どもが生き生きと「全力」で活動できる学校にしましょう。

- まずは、わたしも皆さんも教職員が元気いっぱい、全力の姿を子どもたちに見てもらいましょう。一生懸命な姿は人の心を揺さぶり、動かします。
- 「めあて、問題、見通し、自力解決、共有、まとめ、小テスト」などの段階をはっきりさせたメリハリある授業により、自ら「考え」、自ら「学ぶ」ことのできる学習、互いに「学び合う」（かかわる力）学習を進めます。→ 一問一答の授業はしません。しかし、教えるべきはしっかり教える。「教えて、考えさせる授業」
- 教育活動及び各種学校行事に、学年の発達段階に応じためあてをもち、子ども自身が役割を自覚し積極的に取り組める仕掛けを考えます。（学年集会、学年内実行委員会など）
- 子ども自ら健康に関心をもち、「自己の課題」と「自己のよさ」を把握しながら、体力向上や怪我の予防、生活習慣の改善、心の健康の安定を図ります。スクールカウンセラーも積極的に活用します。
- 全学年でまずは交換授業を試行してみてください。（年度途中からでもちょっとずつ）一人の子どもをみんなで育てる具体的な機会をつくります。

- (2) 全教職員で、谷戸小が学びの場にふさわしい教育環境（指導環境・美化環境）の整った学校にします。
- 清潔でさわやかな環境になるよう教職員自らが清掃、美化に努め、環境を維持する。子どもたちを迎える前点検、放課後の掃き掃除、水拭き掃除・机ならべ、下駄箱上の水拭き、水道周りの水拭き、蛇口を下に向けるなど、子どもの豊かな成長を促す基盤を整えます。
 - 週案簿計画等を活用し、計画(Plan)、実行(Do)、評価(See)、改善(Action)を日常化して、授業力を高めます。
 - 全教職員で「学年・学級・専科関係なく」全児童を指導・支援・応援します。
 - 算数習熟度別指導など、個に応じた指導を進めます。（到達目標は同じ、アプローチの仕方が違う）
 - 生活指導等に迅速かつ組織的に対応します。
 - その日のことはその日のうちに最大限を尽くします。
 - 一人で抱え込まない、抱え込ませない、対応での単独行動は必ず失敗する。
全件複数教職員対応で誠意をもって対応します。
- (3) 全教職員で学校の取組が家庭・地域に理解され、協力を得、信頼されるようにします。
- 構えとして、教育活動をいつでも公開できる状況にします。学校公開日は通常の授業に加えて、公開だからこそできる教育活動の展開を工夫する。
 - 学校・学年・学級の取組や考え方を積極的に伝えます。（学校だより、学年だより、学級だより、専科の通信、保健だより、給食だより、図書だより、行事通信 等、学校ホームページ、廊下掲示板の活用、教室掲示の工夫）
 - 様々な意見をもとに学校・学年・学級改革を進めます。
あらゆる場面でご意見をいただくとともに、学年・分掌単位等で学期ごとにミニ学校評価（各種反省）を実施して、次の学期の学校・学年・学級改善に結び付けます。
 - 家庭・地域と協力・連携し、安全・安心につながる安全対策に教職員自ら積極的に取り組みます。（身近に潜む危険を一人一人が観察し、即改善する。そのままにしない。「ハウレンソウ」）
- (4) 全教職員が互いに高め合い、協働する学校にします。
- 教員が短時間でも他学級・専科の授業・子どもたちを見る「ちょこっと拝見」の推進
 - 実践を通して謙虚に学び合い、気持ちのよい時に緊張感の中で切磋琢磨します。（板書構成、字体、書き順、机間指導、声の大きさや抑揚 等）
 - 特別支援教室「せせらぎ」の指導や児童の様子から多くのことを、学び在籍学級で生かしコラボしあいます。
 - 東京都教職員研修センターの研修に是非、申し込みをしてみてください。最先端の学びと他地区の教員とのかかわりが大変有効です。
- (5) 全教職員で、児童、教職員、保護者、地域が誇りにできる「谷戸小コミュニティースクール」にしましょう。
- 地域の思いや願いを「形」にしていきましょう。
 - 子どもたちの健やかな育ちのために保護者・地域の方々・地域施設・企業等の方々が参画・協働する活動・場を積極的に設定しましょう。（ゲストティーチャー、授業支援、行事支援、児童理解支援、環境支援等）
 - 教職員同士が「先あいさつ」、「いつもありがとうございます」、「お世話になります」、「お先に」などがかようことが連携の基盤になることを一人一人が忘れないようにしましょう。

4 谷戸小の全教職員が皆で大切にしたい7つのこと

- ◎ 地域を大切にする。
- ◎ 健全な倫理観、社会性（教育者である前に社会人である）
- ◎ スピード感（直ぐやる、後回しにしない）
- ◎ イノベーションスピリッツ（挑戦、前例打破とカスタマイズ）
- ◎ 予防、予見（想像力）
- ◎ 高いアンテナ（四方八方）
- ◎ 相互理解、相互尊重、相互感謝、前向き行動

(1) 「よいところをもっとよく」を基本に実践を進めます。

○教職員一人一人の持ち味を一緒に働く教職員一人一人が理解して、創意とチャレンジ精神にあふれた教育活動を展開します。(「いままで」も大切。でも「これから」がもっと大切です。)

- 日々に指導を工夫し魅力ある授業・活動を創り出します。(挑戦・試行錯誤)
- 分掌提案はヒト味付けをして、組織・分掌を活性させます。(前例踏襲打破)
- 高みをめざして研究・研修を続けます。(貪欲に、プロ意識、プロプライド)

(2) 「豊かなふれあい・確かな児童理解・きめ細かな指導」を進めます。

○豊かなふれあいを!!

- 学級、学年、学校で学ぶ子どもたちとたくさんお話しします。
- 朝、校門、昇降口や教室で子どもを迎えています。(谷戸小の素晴らしい構え)
- 子どもたちと共に学び、遊び、働き、行動している。(師弟同行・伴走型教授)

○確かな児童理解を!!

- 様々な角度から、子どものよさや課題を把握します。(アップデートが大切です)
- 子どもの情報を職員間で共有し、積極的に声をかけます。

○きめ細かな指導を!!

- 個に応じた指導を工夫し、子ども一人一人の学ぶ意欲を高めます。
- 子ども一人一人の作品や学習物に、意欲がわく動機付けを添えます。

(3) 学習指導・生活指導を通して、学ぶ意欲と学び続ける態度、よりよく生きる実践力を育てます。

□ まず、『教科書』が正しく読める」子どもを育てます。

授業以外にもあらゆる機会を活用して、教科書を開かせて、黙読などして基礎的な理解力を身に付けます。宿題においても教科書の予習、復習を積極的に取り入れます。

- 在校時間の80%以上は授業時間です。授業に力を入れ、「学ぶ楽しさ」を実感させながら「学習意欲」を高め、誰一人取りこぼさない学習展開を目指します。
- タブレット端末を活用したトライアンドエラーの授業、テレビ、書画カメラ、デジタル教科書など積極的なICTの活用も含めた指導内容・方法・体制の工夫・改善を図りながら、子どもたちと一緒に創る授業に挑戦します。
- 学校図書担当教員、学校司書と連携して、学校図書館の機能や教材・教具の充実を図り、その活用により、読書好きの子どもを育てます。また、市図書館の積極的連携・活用も進めます。
- 国際理解教育及び日本の伝統・文化理解教育を推し進め、我が国の伝統や文化への理解と発展の意識を深めるとともに、諸外国の文化を尊重する態度を育成するための取組(グローバル教育)も進めます。
- 「基本的生活習慣」の定着と社会性を育てるために、集団指導と個に応じた指導にメリハリを付けながら指導を進めます。学校は集団における学びの場であり、ひばりが丘中、他中学校、上級学校、その先の社会人を見据えて指導を行う場が小学校です。

<社会性を育てる基盤となる取組>

- ◇ 先あいさつの励行
- ◇ げた箱カカト整え
- ◇ 傘束ね
- ◇ 廊下歩行(右を静かに歩く、移動する)
- ◇ 5分前行動
- ◇ 師弟同行による清掃指導
- ◇ 整列、教室移動
- ◇ 授業の始業、終業のあいさつ・号令
- ◇ 給食の準備・配膳・片付け・給食指導、感謝(いただきます、ごちそうさま)
- ◇ 落ち着いた話の仕方、聞き方、声の大きさ指導の徹底(基本は「1」の声)
「1」の声で聴くことができる学校・学年・学級づくりを進めたい。

□ 出席簿による出・欠席児童の確認、連絡を徹底します。(登校確認の徹底)

□ 欠席児童の保護者には電話して児童の様子を聞くとともに、コミュニケーションを構築します。

(4) いじめ、不登校、問題行動、人権侵害などへの早期対応体制を確立します。

「学校いじめ防止基本方針」、「いじめ対応西東京の約束」に基づき、「人権教育プログラム」を活用して、差別や偏見をなくし、互いの違いや異なりを認め、よさを認め合う人権教育を充実させます。

※キーワードは、「自分も他者も大切にする」、「いじめは絶対に許さない」、「いじめを見て見ぬ振りしない」、「いじめを受けている子どもを絶対に守る」

- 1に「相談」、2に「連絡」、3に「報告」の徹底（4に「記録」）
 - その日にできることを最大限行う。
 - 正確で公正な実態把握、短期的・中長期的な対応
 - 教職員間の共通理解と組織的な対応及び保護者・関係機関との連携（直接話、直接訪問）
 - 年3回いじめ防止アンケート、いじめ防止授業の実施、年1回以上子ども生活アンケートの実施
 - 生活指導主任、SC、教育支援コーディネーター、養護教諭、担任等のカウンセリング機能を充実させます。
- (5) 特別支援教室「せせらぎ」の強みを生かして、インクルーシブ教育の推進を図り、多様性を認め合う、多様性に応じた柔軟な指導・支援、特別支援学級教員、保護者連携を強化する。
- 特別支援教室専門員、教育支援コーディネーター、特別支援教室「せせらぎ」、SC、SSW との連携により、特別に配慮を要する児童に対する特別支援を充実させる。
 - 学習の見通しの明確化
 - 声のものさし指導の徹底（校内は「0.5～1」の声、発表は「2」までの声で聞くことができる子どもを育てる。）
 - タブレット端末、ICT機器の積極活用（言葉の見える化、残る化）
 - 個別支援の充実 一人一人の子供に全教職員で関わる。（再掲）
 - 特別支援学校等との「副籍交流」を一層推進する。
 - 特別支援教室での指導の様子を全教員があらゆる機会をとらえて見学し、在籍学級や専科の授業に活かす。（せせらぎと在籍学級（学年）との連携）
 - 特別支援教室「せせらぎ」の教員の支援や助言を積極的に取り入れて、個々のニーズに応じた指導・支援を充実させる。そのための連携・打ち合わせを行います。（フィードバック）
- (6) 安全、安心な学校生活を送るために、「安全教育プログラム」を活用して危険を予知、回避する能力を伸長させます。
- 「一声指導」の充実・活性化
 - どのような行動が安全・安心なのかを考えさせるとともに、安全教育プログラムに基づき、学年の発達段階に応じて、あらゆる機会を通して指導する。
 - 登下校の安全指導（交通ルール）の徹底を図る。（命を守る指導）
 - 安全点検における用具、遊具、樹木、塀、扉等の目視ではなく、「触手」による組織的点検を行う。
 - 安全指導、避難訓練が今求められる内容となっているかを常に検証し、随時に変更をかけていく。
- (7) 特別活動を通して、子どもたちの相互に高め合うこと「谷戸小は自分自身で創る」力を身に付けます。
- 「一緒にやって、子どもに任せて、ほめる、さらに〇〇するといよいよ。」のスタンスで特別活動を進め、子どもたちに自主的、自律的な力を身に付ける。
 - 遠足、異学年交流等の一回一回を大切にして、子ども一人一人が達成感とともに仲間の幅がひろがる実感をもてるようにする。
 - 学級会の話し合いをとおして、「折り合い」を付けながら学校生活をよりよくする考え方や実践を積み重ねる。（カタチではなく、中身）
 - 異学年集団の交流を通して社会性も育てる。
 - 児童会活動、クラブ活動、学校行事を通して豊かな人間関係を育成する。（基本、子どもたちに任せる、しかし丸投げにしない。）
 - 学校行事を充実させるとともに、ボランティア（奉仕）活動を推進し、主体的に取り組む態度や奉仕の精神を育成する。
 - 子ども一人一人の自己有用感、所属意識を高めるための改善を積み重ねる。
- (8) かかわりタイム（仮称）人、自分、モノ、コト、地域、安全、公共等を学習課題とした、ショートスタディを研究してみたい。
- (9) 保護者・地域の方々との連携・連帯・参画
- ◎地域コーディネーターとの連携を強固にして、地域の思いを「形」にする谷戸小を目指す。
 - 学校運営協議会
 - 育成会メタセコイア

- 主任児童委員・民生児童委員
- 学校施設開放運営協議会
- 避難所運営連絡協議会
- 本校が募集させていただく保護者の係
- 各種ボランティア
- 自治会、町内会
- 幼稚園・保育園、学童、児童館等スタッフ 等々

(10) 教職員は、公務員であることを自覚し、予算執行・給食指導・教育環境整備は、都民の税金や保護者の貴重な私費を頂戴していることを認識して業務を進めます。

- 私費教材は計画的に使用し、評価し、必ず返却する。
- 計画的且つ公正・的確に予算を執行するとともに、備品・消耗品等の有効活用を図る。
- 費用対効果を意識する。紙ベース→校務システム「回覧板」の活用
- 水道・電気などの無駄使いは厳禁、光熱水費等の節約を励行する。(職員室電気・教室電気、印刷室電気はこまめに消す など)
- 学校給食の安全管理を徹底する。給食会計の公正・適切な予算の執行を図る。
- 机上整理、職員室棚整理日を毎週設定し、常時の美化と服務事故防止に努める。
- 私費会計等の計画、執行、決算報告等を適正に行い、保護者に報告する。(複数点検、主任のチェック)
- 「環境は無言の教師」である。清潔で美しく、温かさが感じられるように、校舎内外の環境を組織的に整備する。(学校・学年・学級の安定は環境から)
- 服装、通勤・退勤のマナー、法令順守に十分に留意する。
通勤、退勤時の服装に注意、勤務中の服装も注意、自転車通勤(交通違反、法令、自転車利用安全5則の厳守、ヘルメットの着用(努力義務ではあるが自分の命を守るために積極着用))

(11) 学校は子ども・教職員で一緒になって創ります。偶然にも出会った谷戸小に集う教職員一人一人が学校経営・運営に参画して、子供たちを幸せに導きます。(「一期一会」)

- 学校経営方針を踏まえ、教育目標や子どもの実態に即した自己申告(キャリアプラン)の作成と実行
- 毎週の指導計画(週案)を作成し、毎週末又は次週の月曜日に提出し、管理職が決裁する。
- 教育課程及び学校経営方針に沿った企画を各分掌で行う。また、報告・連絡・相談を確実に行う。
(主幹教諭・主任教諭・各主任との連携・ライン、主任→主幹→副校長)
- 年3回の自己申告面接と意見交換の実施、定期と随時のぶらり授業拝見

5 組織の一員としての自覚を強くもって、当たり前のことを当たり前(凡事徹底)に行います。

教育目標の具現化のためには、教職員一人一人が自己の能力を生かし、分掌した職務について、その責任を果たさなくてはならない。同時に、組織体としての機能を発揮するには、相互に協力・補完し合うことが大切である。また、全国的に教職員の不祥事(服務事故)が続いている。服務に例外はなく、公務員として、憲法・教育基本法・学校教育法はもとより、地方公務員法・地方公務員特例法等で規定された責務を自覚し、全体の奉仕者として職務を遂行しなければならない。いつでもどこでも見られている意識をもって行動する。

- 出退勤時刻、出退勤・出張等の勤務の様態遂行(ゆとりをもって出勤)
- 出張後の復命及び直帰の際の電話連絡等の厳守(副校長又は主幹教諭、学年主任)
- 教育公務員として、さらには社会人としての常識ある言動、服装等をわきまえる。
各種研修、主任会、連絡会、社会科見学(公官庁、公共施設、民間企業等)、市小研、他学校への訪問はフォーマルな服装、あらゆる場面でラフ格好は誤解を招くことがある。
- 通勤届として出された通勤手段で通勤する。
- いかなる理由があろうとも、体罰は厳禁。性暴力厳禁。不適切言動も同様。(日ごろから深呼吸をすること、アンガーマネジメント、決めつけ(バイアス)なし。)
- 児童・保護者・地域・同僚職員等へのセクシャルハラスメントの禁止。距離感を常に考える。
- 個人情報の取り扱いもハウレンソウ、複数対応、声出し、声掛け。都度、ハウレンソウ。
- 人権感覚を磨き、人権への配慮を常に意識して教育活動に当たる。児童に対する言葉遣い、対応に十分配慮する。(呼び捨てなし)
- 電話には、全教職員で積極的に出ましょう。「(「こんにちは谷戸小学校●●室です」と元気よく、対象

者が不在、または、校内にいて時間がかかりそうな場合は、相手先の電話番号を預かって、学校から架電するようにする。)

来客者、保護者、地域の方への先あいさつ「こんにちは」、「いつもありがとうございます」の徹底（礼儀、防犯）

6 働き方改革「ライフワークバランス」の推進し、子どもたちと向き合う時間の創出と自らの生活や互いの生活を豊かにする。まず、働き方改革は自己の業務の進行の仕方を「改善する」、「工夫する」、「自己管理」することから始まります。そのための業務の進行管理力、時間管理力を高めましょう。スケジュール帳などの活用により、自己業務の進行管理の工夫を行うとともに、勤務時間内の仕事の進め方を「時間軸」でとらえ、TODOを定着させてください。

その上に立って、組織として、

毎週水曜日の定時退勤

電話入電時間及び留守番電話の設定

会議の厳選、時間短縮→校務支援システム掲示板・メールに移行しましょう。

状況に応じて職員打合せの開始時刻の繰上げ（後1休などが取得しやすいように）

チーム・オールで調整しながら、計画的かつ積極的な年休と時間休の取得

互いにコミュニケーションを密にしながら補完し合い、ゆとりの時間を捻出

7 結びに

谷戸小の校長として1年めとなる本年度は、「地域愛」と「組織の活性化」を自己のテーマとして、常に変化し続ける学校づくりに邁進する。そのためには、自分が率先して、学校経営方針を実行していく。校長として谷戸小にかよう子どもたちを幸せと教職員のやりがいと生きがいを導く使命がある。己に厳しく、教職員には緩急を付けながら積極的に指導・助言及びコミュニケーションを図るとともに、子どもたちとたくさん対話しながら活気・活力ある学校づくりを丁寧かつスピード感をもって進めます。

※ なお、本方針は、地域、学校の実態、児童の実態の変化・変容、市・都・国の動向などを踏まえ、随時に変更・追記等を行います。